



「燕三条^{こうば} 工場の祭典」 in 台湾

新潟・燕三条地域の工場見学イベント「燕三条 工場の祭典」が台湾へ！
エキシビジョン「工藝現場 Crafts LIVE」開催のご案内

ー2017年4月19日（水）～23日（日）開催の台湾のデザインイベント「台湾文博会」にてー



読者お問い合わせ先

「燕三条 工場の祭典」実行委員会

公益財団法人燕三条地場産業振興センター 産業振興部 新潟県三条市須頃1-17 0256-35-7811

掲載・取材に関するお問い合わせ先

燕三条 工場の祭典 PR 事務局/ HOW INC.

TEL. 03-5414-6405 / FAX. 03-5414-6406 / EMAIL. pressrelease@how-pr.co.jp

2013年にスタートした新潟県燕三条地域の名だたる企業が一斉に工場を開放し、ものづくりの現場を見学・体験できるイベント「燕三条 工場の祭典」は、台湾文化部が主催し、台湾デザインセンター運営のもとで実施されるクリエイティブトレードショー「台湾文博会」からの招待をうけ、4月19日（水）～23日（日）、エキシビジョン「工藝現場 Crafts LIVE」を開催いたします。

「工藝現場 Crafts LIVE」は、「燕三条 工場の祭典」のイベント全体監修を行う「method」の山田遊がキュレーターに迎えられ、「燕三条」だけでなく、銅器や螺鈿細工の産地、富山県高岡市の「高岡クラフツーリズム」、台湾の陶磁器産地「鶯歌（イングー）」、3地域による台日職人の体験交流イベントを企画しました。会場では、燕三条エリアのものづくりの展示や工場によるワークショップも行います。日本と台湾の職人の技術やそれぞれの産地での活動を体験できるイベントです。

開催概要

開催名	「工藝現場 Crafts LIVE」		
開催期間	2017年 4月19日（水）～23日（日） 10:00～18:00（最終日のみ 17:00 まで）		
開催場所	華山クリエイティブパーク内 中7棟 台湾文博会 H4エリア		
企画団体・企業	燕三条 工場の祭典、高岡伝統産業青年会、鶯歌 新旺集瓷		
キュレーター	method 山田 遊		
デザイン協力	SPREAD、ROLE/羽田 純、KEV Design Studio/周 育潤		
文博会Website	https://creativexpo.tw		
Website	http://kouba-fes.jp		
SNS	https://www.facebook.com/koubafes	https://twitter.com/koubafes	

「燕三条 工場の祭典」運営チーム

主催・運営:「燕三条 工場の祭典」実行委員会

イベント全体監修:method

アートディレクション、デザイン:SPREAD

プレス:HOW INC.

ワークショップタイムスケジュール

参加工場	概要	所要時間、項目、定員	4/19（水）	4/20（木）	4/21（金）	4/22（土）	4/23（日）
「タダフサ」 「日野浦刃物工房」	包丁作り。 砥石で研いで、切れ味良く仕上げる。	所要時間：60分 料金：800台湾ドル 定員：6名	12:00- 15:00- 17:00-	10:00- 13:00- 16:00-	10:00- 12:00- 14:00- 16:00-	12:00- 15:00-	12:00- 14:00-
「マルナオ」	木製の箸作り。 かんなを使い、先端まで八角形に仕上げる。	所要時間：30分 料金：300台湾ドル 定員：4名	11:00- 14:00- 16:00-	11:00- 12:00- 14:00-			
「武田金型製作所・MGNET」	定規作り。 真鍮の定規に好きな文字を刻印し、ヤスリで仕上げる。	所要時間：20分 料金：300台湾ドル 一回最大：4名	10:00- 13:00-	15:00- 17:00-	11:00- 13:00- 15:00- 17:00-	11:00- 14:00- 17:00-	11:00- 15:00-
「玉川堂」	小皿作り。 銅板を金鋸で叩いて、形と模様を仕上げる。	所要時間：60分 料金：500台湾ドル 定員：5名				10:00- 13:00- 16:00-	10:00- 13:00- 16:00-
「山谷産業」	石割り体験。 燕三条製鍛造ペグとハンマーで石を割る、砕く。	所要時間：5分 料金：無料 定員：5名	11:00- 13:00- 15:00-	11:00- 13:00- 15:00-	11:00- 13:00- 15:00-	11:00- 13:00- 15:00-	11:00- 13:00- 15:00-
「ツバメコーヒー」 「三条スパイス研究所」	二社がセレクトした商品を販売する台湾限定ショップ。	—				終日	終日

参考情報

台湾文博会 <https://creativexpo.tw>

文化部（文化庁相当）主催、財団法人台湾デザインセンター運営のもと、2015年より、台湾初の「デザインのビジネスショー」「クリエイティブ産業の万国博覧会」という位置づけで開催することとなりました。

2017年の開催は、台北の人気スポット3箇所を会場として展示を実施し、数多いショップとも連携しながら、台北をデザイン一色で盛り上げるシティワイドな一大イベント。会期中、来場者数は20万人以上が見込まれます。

工場の祭典 <http://kouba-fes.jp>

2013年にスタートした金属加工の産地、新潟県燕三条地域とその周辺地域の工場が一斉に工場を開放し、ものづくりの現場を見学・体験できるイベント。日本を代表する産地で多種多様な製品を産み出しているKOUBA（工場）や、米どころとしても有名なこの地で農業に取り組むKOUBA（耕場）。そんな普段は閉じられている場所を訪れ、職人たちの手仕事を間近に見て、彼らと対話し、ワークショップに参加することもできます。またKOUBA（購場）では、この地で作られた産品を手にすることができます。2016年は、96拠点の工場を開放しました。5回目となる今年は、「開け、工場！燕三条に丸ごと触れる秋の4日間」のテーマのもと、10月5日（木）から8日（日）までの4日間、開催されます。

新潟県 燕三条地域

燕三条地域（三条市・燕市）は新潟県のほぼ中央、信濃川沿いに位置する、面積約540km²、人口約18万人規模の地域です。山々からミネラル豊富な雪解け水が信濃川に流れ込み、肥沃な大地を形成し、米をはじめ、野菜、果樹など上質な農作物が作られる農業地域であり、また、日本で一番社長が多い街とも呼ばれ、家族経営や数人程度の小規模な企業が、刃物や金属洋食器などの金属製品を中心に、世界に誇る多種多様な製品をつくり出しています。

両市の「ものづくり」の歴史と伝統をひも解くと、江戸時代の和釘づくりが転機であるといわれています。三条では江戸時代に大規模な新田開発が行われたことから、それに伴い農具を中心とした刃物作りが発展していく一方で、江戸から膨大な和釘の需要を求められたことから、和釘製造が盛んになりました。明治時代になると、和釘鍛冶から大工道具や庖丁などの刃物鍛冶への転換が進み、これらの製品は信濃川の河川を利用した流通の発達により、金物商人を通じて全国へと届けられました。越後平野の中心地で河川の合流地でもあったことから、街道の宿駅であり、河港として船便に恵まれていたため、都市への輸送だけでなく、物資の集散地としても商業が発達し、広く鍛冶製品の品質が知れ渡りました。熱した鉄を繰り返し打ち叩いて鍛え上げ研ぎ澄ます技術から生み出される道具は、何年、何十年と使い続けられ、研ぎ直しのために鍛冶職人の手に戻ってくることも多くあります。

一方、燕では、江戸時代に鋳起銅器の製法が伝えられたことなどから、和釘作りから銅器など別の金属加工業へ転換していきました。職人が一枚の銅板を叩き上げ生み出す急須や花器は、使う程に光沢を増すと言われていました。また、長年培ってきた金工技術の評判により、大正時代に入ると洋食器の生産に金工技術が活かされました。その後も鍋やケトルといった金属ハウスウェアも手掛け、金属加工一大産地へと発展してきました。工業化が進んだ現代でも鍛冶や鋳起などを始めとした伝統的な技法を守り続けている職人も多数存在しています。さらに、職人たちはただ伝統を守っているだけでなく、科学的な検証・知見により、伝統技術を見直し、時代の流れに合わせ、現代の暮らしを豊かにするため、その産品を日々更新し続けています

農業と商業が、工業と有機的に結びつきながら、世界有数の高度な技術集積地となった「ものづくりのまち 燕三条」。この地を訪れば、職人たちの類まれなる技と心に出会うことができます。



信濃川



金属加工の様子



ワークショップイメージ



ワークショップイメージ